

令和５年度 第２回市立公民館運営審議会 会議録

- ・日 時 令和６年２月２１日（水）午前１０時００分～午前１１時３０分
- ・場 所 日新地域公民館 ２階会議室
- ・参加者 福知山市立公民館運営審議会委員１６名
福知山市教育委員会教育長
事務局：中央公民館長、各地域公民館長 中央公民館次長補佐
- ・傍聴者 なし

○開会

挨拶 福知山市教育委員会教育長

○議事

１ 令和５年度市立公民館の事業等について

- ・公民館講座に関して効果測定するために参加者に５項目を設定し実施したアンケート結果について説明。（別添資料Ｐ３～７）
- ・スマートシティふくちやま生涯学習市民講座の実施状況について説明。（別添資料Ｐ８～９）
- ・令和５年度公民館活動報告について各館長より説明。（別添資料Ｐ１０～５２）

２ その他

市立公民館１０館合同イベントの取組の紹介など

○閉会 副委員長挨拶

質疑等

(委員) 今年度は、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが5類へ移行した。徐々に本来の公民館活動が進んでいるということで、本当に尽力いただいたことに感謝申し上げる。その中で、気が付いたことが2点ある。まず1点目として、資料3ページの講座アンケートの中で、どの世代に焦点を当てて活動計画を立てるかということであるが、子育て世代、20代、30代、40代が少ない。一方、シニア世代の60代、70代、80代の参加が多い。シニア世代を大事にするのか、若い世代に焦点を当てていくのか、各公民館から色々な活動報告を聞く中で、どこに焦点を当てて、本年度の活動をしたのか大変よく分かった。その辺りの見極めがとても大事であり、今後の課題でもあると思う。子育て世代に焦点を当てると、やはりICT化が進んでいる。学校現場でも1年生からタブレットを使いこなしている。子育て世代は、ウェブ中心である。そうするとシニア世代は大変になってくる。今後もスマホ難民を出さないようにICT化に向けた講座の活用をお願いしたい。2点目として、何をニーズとして講座を開いていくかということであるが、今年1月1日の能登半島地震を受けて、他人事ではなくいずれ南海トラフ地震も発生することから、防災が大事ではないかと思う。

(公民館) 講座アンケートからは、シニア世代も大事にしていく視点も必要であることが読み取れる。子育て世代は、ICT化が進んでおりウェブでの申込みが多い。今後は、どの世代にも喜んでいただけるような周知の仕方や申込みの方法も考えていかなければならない。また、スマホ難民を作らない、そういった講座もニーズが高ければ、今後やっていきたいと考えている。防災が大事な視点という意見もいただいた。自治会や消防団などと連携も含め、単独ではなくて色々な主体と手を携えて効果的な講座を展開していきたいと考えている。地域公民館は避難所に指定されている地域の拠点として非常に大事な場所であることから、そういった防災の認識も深めていただけるような仕掛けも考えていきたい。

(委員) 公民館の大規模改修が進む中でたくさんの方に公民館を利用してほしいという話があったが、資料のパンフレットによると、公民館の休館日が祝日、年末年始の休みとなっている。なにか決まりがあるのか、また、祝日に利用したい場合は、各公民館に相談すればいいのか教えてほしい。また、各公民館の事業は全館一律のものなのか、各公民館で対応しているのか教えてほしい。

(公民館) 公民館の休館日等は、福知山市立公民館条例施行規則に基づき運用している。祝日利用のニーズが高ければ、今後検討していくことになる。夜久野地域公民館や三和地域公民館は、建物の構造上、単独の公民館というよりは、建物の中に公民館が入っている状況であるため、他の公民館と使用時間などが異なる。ま

た、各公民館の講座については、地域のニーズや公民館運営協議会の内容も含めて計画しており、一律の対応はない。資料の２ページに記載している市立公民館の活動の重点に沿った形の内容を実施していくことが大事だと考えている。

(委員) 本日の報告を聞いて、地域公民館の活動は本当に人材的にも講座についてもよくやっておられており、高く評価をしたいと思う。今後も発展していったほしい。例えば日新地域公民館からの報告にもあったように建物を改修され、利用者が増えたという点は、市長や教育長にもどんどん報告してほしい。また、経費と効果の観点から、どれだけの必要経費でどれだけの経費が使用されたという報告がなかったので、予算の増額など、公民館事業を行っていくうえでの課題があれば、それを市に伝えていくことが運営審議会の役割であることから、来年度以降、経費的なことなども報告いただければと思う。また、公民館という役割を考えたときに、国の方針、時代のトレンドも大事である。２０２３年に国の中央教育審議会が、これからの教育振興基本計画を出している。これからの公民館は、地域社会のウェルビーイング、向上に資する公民館を強化せよと。いわゆるウェルビーイングという言葉が国の方の施策に出てきている。先日も中央公民館長と一緒に全国研修会に行かせていただいた。その時のテーマもウェルビーイングに対する公民館がどうあるべきかということが議題として取り上げられた。これからは健康や福祉ということが一番原点になっているときに、公民館運営審議会のメンバーが教育委員会だけに偏っていていいのか、全国的に見れば生涯学習課が市長部局になっているところもある。まちづくりや福祉、防災など色々な問題が出てきているということで、今後はそういう視点も入れていただきたい。

(公民館) 本日いただいた意見は教育長にもきちんと報告させていただく。市立の地域公民館になるため、最小の経費で最大の効果を表すという視点でもって、予算が足らなければ、要求していく必要があると考える。お話しのとおり２０２３年の中央教育審議会でも地域社会のウェルビーイングという文言が出ていることについても承知している。また、地域の拠点として、福祉、防災など多機能型になっている。各地域公民館には包括支援センターを設置していたり、避難所指定もされているため、教育分野だけに偏っているのかというご指摘はそのとおりだと思う。そういった視点も含めて公民館運営をしっかりしていきたいと考えている。

(委員) 公民館活動で室外、グラウンドで行うものが非常に少ないと思う。地域公民館にグラウンドを常設しているところは少ないと思うが、室外での活動についても考えていただければと思う。

(公民館) 講座のほとんどが室内になる。グラウンドが借りにくい状況の中で、室内

でどのように活動を継続していくかということを各地域公民館で知恵を絞りながら、ニーズに合った活動の検討を進めていきたい。